

令和2年2月22日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第14期
「京都教師塾」

第4回教育実践特別公開講座

講師：総合育成支援課 小田 健司 首席指導主事
「総合育成支援教育を考える ～「合理的配慮」という考え方～」

今回は総合育成支援課の小田健司先生に、国と京都市の特別支援教育（京都市では総合育成支援教育）の取組の経過および現状、合理的配慮やユニバーサルデザインについて教えていただきました。義務教育段階の全児童生徒数が減少傾向であるのに対して特別支援教育の対象となる子どもが増加傾向にある中、学校全体で一人一人の自立や社会参画に向けた適切な指導及び必要な支援を行うことが大切です。学校における合理的配慮の例もいくつか紹介してくださり、授業のユニバーサルデザイン化は支援の必要な子どもにとってわかるだけでなく、どの子どもにもわかりやすいものとなることに、改めて気付いたことと思います。

以下は、京都市の採用内定者である卒塾生の感想の一部です。採用内定者となった今、もう一度教師塾の講座に参加することで、良い刺激になったようです。

- 発達障害について理解を深めることや、一人一人の子どもの教育的ニーズを見極めることで、子どもの特性に応じた配慮をすることが大切であると学びました。自分の引き出しを増やし、配慮の手立てについて学び続けることで、適切な支援ができるようにしたいです。
- 教室の中には、様々な事情を抱えた児童がいる中で、その子どもだけでなく全ての子どもたちが「楽しく学べる」「わかる、できる」と思える授業づくりや学級づくりをしていくことが大切だと改めてわかりました。4月から、そのことを大切に、教材研究、学級経営をしていきたいと思います。



第8回京都市教育学講座 講師：保護者2名 「先生を目指す塾生に期待すること ～保護者の立場から～」

午後からの教育学講座では、小学校と中学校でそれぞれPTA役員をされている2名の保護者の方に来ていただき、パネルディスカッションを行いました。保護者の方が今までの経験の中で印象深く残っている出来事や先生について、具体的なエピソードを交えながらお話ししてくださいました。親として学校や先生に期待することについて、「一人一人を認めてあげて欲しい」「子どもの表情や行動をよく見て欲しい」と話されていました。特に若手の先生に期待することとしては、「失敗をおそれずにたくさん経験して欲しい」「子どもと十分に触れ合って欲しい」と伝えてくださいました。

分散会では、「保護者との信頼関係をどう築くのか？」というテーマで話し合い、活発な話し合いを行いました。皆さんの中には、保護者は怖い存在だと思っていた人もいたかもしれませんが、子どもを中心に置いて、先生と一緒に子どもを育てていきたい、そして先生を応援したいという思いをもってくださっていることに気付かされたことでしょうか。保護者との信頼関係を築くためには、まず子どもとの信頼関係を築くことが大切です。そのためには、日頃の行いはもちろんのこと、わかる授業と学級経営の大切さにも目を向けて欲しいと思います。



仲間のレポートに学ぶ

第8回京都市教育学講座【講義】

「先生を目指す塾生に期待すること

～保護者の立場から～」を受講して

1 全体会

保護者の方々から生の声を聴けて、改めて教師という仕事の責任の重さを感じた。保護者は大切な子どもを学校に預けており、教師はその子たちを守る使命がある。また、自分の見ていないところで子どもがどんなことをしているのかも気になっているはずである。教師は生徒の目線に立つだけではなく、保護者の目線にも立って、どんなことが知りたいのか、どんなことを学校に望んでいるかを考えなくてはならないと思う。教師は保護者と密に連絡を取り合い、その生徒の良かったことや成長を積極的に伝えていくべきである。そうすることで、保護者の方がおっしゃっていたような「安心」できる場になるし、自分の子どもを一人の人として見てくれていると実感できるようになると思う。また、教師は保護者の前だけでいい顔をするのではなく、子どもの前でも尊敬される教師とならなくてはならないと思った。子どもを通して保護者にも教師の姿勢が伝わると思う。風通しのよい関係を築くことで保護者とより良い信頼関係ができ、一緒に子どもの豊かな成長を実現できると感じた。

2 分散会

分散会でも「誠実」というワードが核となった。保護者に対して嘘をつかずに真摯に向き合うこと、一人一人の生徒を個として大切にすること、親身になって保護者の話を聞いて共感すること、全てをひっくるめて誠実だと思った。「保護者」と聞くだけで何となく相手にしづらいという感じがするが、教師も保護者も、子どもの成長を第一に考えている存在であり、協力していけば子どもの成長がもっともっと豊かになると思う。

3 まとめ

保護者は子どもを通してしっかりと教師を見ていると思うので、責任感を持って日頃から振る舞わないといけないと感じた。また、実際に保護者を目の前にしたときの印象も大事だと思うので、笑顔で話しやすい関係を作っていきたいと思う。集団の中で一人一人の生徒を見られるか不安はあるが、子どもの目線で常に物事を捉えていきたい。

寝ている時間を除くと、子どもは残りの時間の半分ずつを学校と家庭で過ごしています。長く教師をしていると、様々な保護者と出会い、そこから学んだことも多くありました。多くを語らず、「先生、うちの子頼むわな。」「先生、勉強見たってな。」とおっしゃった保護者がいらっしゃいました。どちらもたった2、3秒の言葉でしたが、とても重みのある言葉でした。この言葉にどれだけの保護者のおもいや願いが託されているかということを考えると、身の引き締まる思いをしたことを覚えています。若い先生であってもベテランの先生であっても、誰もが様々な経験を通して学びます。保護者対応も上手いいかないことはあります。「同僚性は汗と笑いの中から生まれる」と聞いたことがありますが、上手いいかない時は一人で抱え込まずに相談してください。

FW「先輩の授業に学ぼう」

川岡小学校(2/12)



4年体育科「とび箱運動」の授業を参観しました。



高等部3年「クラススタディ」の授業を参観しました。



西総合支援学校(2/20)



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「思いやりと誠実な行動」を実践しよう！
京都府立総合支援学校